

# 冬季アルパインルート・初見・初リード～阿弥陀岳南稜

大阪ぼっぽ会 細井裕子

日程：2018年1月5日（金）～8日（月・祝）	
目的：冬季アルパインルート登攀	メンバー：大阪ぼっぽ会 細井（CL）、Ii 島
行程：	概念図：『日本のクラシックルート』（山と溪谷社・編）
1月5日 京都発茅野行夜行バス	
1月6日 茅野駅着～舟山十字路着 広河原沢経由で立場山～青ナギ周辺～P1～2間のコルにてテント設営	
1月7日 テン場～P3～P4～山頂～御小屋山 山頂～舟山十字路と美濃戸口への分岐～八ヶ岳別荘地～美濃戸口バス停	
1月8日 美濃戸口（タクシー）～茅野 茅野～塩尻～名古屋～京都～奈良	

## プロローグ

白馬主稜、赤岳主稜と最近では冬季登山ルートへ行く機会が増えてきた。しかしいずれも会の先輩に連れていってもらおう山行。そろそろ自力でどこかへ行けないものかと考えていたところ、友人に「冬季アルパインの試金石になるルート」だと勧められていた阿弥陀岳南稜のことが思い浮かんだ。

メンバーを決めるのは早かった。9月に一緒に前穂北尾根に行った Ii 島さん、2年前に一緒に北岳・バットレスのリードを頑張った S 君。年末にそれぞれの力量確認とパーティの呼吸合わせのために石鎚に行って、1月に阿弥陀に挑戦してみようか、と声をかけた。

ところが自身のスケジュールミスで予定してもらった日程は私の体が空かず、石鎚には行けないことが判明。合わせて S 君の離脱も分かり、計画の練り直しを求められた。

悩んだ結果、年末山行の行先は堂満岳中央稜という、こちらもバリエーションルートを選択した。その結果で阿弥陀に挑戦するかどうか決めようと思っていたが、茅野行のバスの空席があと2席しかないことが堂満山行中に分かり、慌てて予約。「こうなったら行くしかないじゃん…」。自らコマを一步進めてしまったものの、『冬季登山』というずしりと重みのある言葉に、堂満からの帰りの時点ではまだ重い腰を上げられずにいた。Ii 島さんも、「無理しなくても、石鎚に行くことになっても全然オッケーです」と明るく言う。こうして迷いつつ新しい年が明けた。

その後 Ii 島さんからの連絡はない。彼女もそれなりに覚悟を決めているんだと思い、私も決心を固める。年明け、道具を借りるために会った会の先輩が一言、「核心ピッチは細井さんがリードすると思うけど」と。流石先輩、そう言われた私がどういう行動をとるか、よく分かっているらしい。

年明け早々から軽量化を考え、外付けもしつつなんとか300gザックに全てを収める。年末の堂満山行で学んだこと。「登山は軽量化が命」。冬季縦走の60～70gザックでダブルアックス登山なんて出来っこない。ロープを担当する彼女も40gザックに収まったという。

そうこうしているうちに出発日を迎えた。

この緊張感、9月の前穂以来だ。とにかく寝るべし。明朝にはもう茅野に着いているんだから。例によって私は多少居心地の悪いバスでも爆睡していた。

## 1月6日(土) 茅野 天気・晴

- 7:00 茅野駅着  
駅の待合室で出発準備。トイレも済ませておく。不用なものはロッカーへ(1日300円)
- 8:15 駅のタクシー乗り場から乗車。
- 9:15 舟山十字路着。  
※道路は凍結していて、タクシーの運転手さんもちょっと難儀している様子。マイカーで来なくて良かったかも。  
※片道5600円。  
※入念に確認したのに、カメラとサングラスをどこかに置き忘れてきたようだ。ショック。
- 9:30 広河原沢経由で立場山へ  
※旭小屋経由で行く予定だったのにいきなり間違えた! 途中の道標で間違いに気付かされる。  
※立場山までは「境界改メ」の木札が山のように刺さっている。卒塔婆のようでちょっと不気味。よっぽど美味しいマツタケが取れるのか?
- 11:15 立場山山頂  
ここを抜けると迫力ある山々が目に飛び込んでくる。右手にあるのは旭岳・権現岳か?
- 11:45? 青ナギ周辺  
P1直前でアイゼン装着。場所が狭く、無名峰あたりでつけておけば良かったと後悔
- 14:30 テン場適地と記載のあるP1~2間のコルに到着。  
2人用テントが張れ富士山を望めるいい場所があり、今宵の幕営地と決定。堂満で果たせなかった悔しさから二人ともザックからお酒がいくつも出てくる(笑)。心ゆくまで酒盛りしつつ、バスの疲れもあって早々に眠りにつく。  
※天気が良いからか、結構冷える。風もきつい。冬張りを持ってきて正解だった。軽量化中も正しい選択。とはいえ、前穂の時に比べたらなんぼの風。



## 1月7日(日) 天気・快晴

- 6:00 起床 準備  
5時には起きるつもりがちょっと(!?)寝坊。10時間以上寝ているのに、まだ眠い。
- 8:15 テン場出発  
もたもたしているうちに出発が目標の8時を回ってしまった。  
P2経過。Ii島さんがトップ。昨日の少しの雪と風でトレースが消えがち。左側をトラバース気味にまいていく。
- 9:00? P3取りつき  
※取りつきが分からず右往左往しているうちに、後続の3人パーティが追いつく。私たちが慎重に慎重を期して通り越したトラバース道をピッケルなしにすたすたとやってきた男性。正しい場所を教えてくれる。この男性には2ピッチ目にして抜かされる。  
1ピッチ目。細井リード。ルンゼ状。雪は浅い。所々薄氷。氷のところを微妙に避けつつルートを選択。10mほど上がったところで、先輩から借りた登攀具(ピッケルのヘツ

ド部分だけの金具)をバイルで打ち込む。がっしり決まる。Ii 島さん曰く、その下左手にリングボルトがあったらしいが、細井の目には留まらず。残念。見上げるとザックがデポされている模様。あれは何だ？

傾斜が少し緩くなったあたりでそろそろ Ii 島さんを上げなければ…と思い、ピッケルとバイルで支点をとり確保体制に。と、Ii 島さん到着前にすごい勢いで先ほどのパーティのトップが抜けてきて、メインルートを取られてしまう。あつという間に、残置ザックまでロープを伸ばしていった。仕方ないので、残置ザックまで本来より右ルートをとって細井がリード。

#### 【テクニカル・ノート】

- ・取りつきに手前に案内看板有り。(バリエーションルートに案内看板が!!驚く) P3 下部岩壁を左側に回って行って、3mほどトラバース。ワイヤーの張られた雪のバンドをやや下り気味におりた地点に現れる。ワイヤーロープでセルフを取る。ただしワイヤーは信用しすぎないこと。
- ・取り付きでザックを移動させるときに、外付けにしていたショベルのブレードを落とす。登攀のときは外付けは少なく確実に固定を。自然に大きなごみを落としてしまったと大反省。
- ・残置ザックの地点に大岩があり、ハンガーボルトが打ってある。本に記載の灌木はない。

次ルートは Ii 島さんがトップ。先頭パーティを避けるために、大岩右のルートを取るも、「本来のルートより大きく外れてしまっている気がする」と途中で止まる。そのまま尾根に抜けられそうだが、トップが行きやすいルートに行くのが良い。Ii 島さんの判断に任せ、一旦大岩の支点まで戻ってくることに。この間も後続パーティが続々と抜けていく。ルンゼ状のため、MAX で着込んでいるはずの体も熱がどんどん奪われる。気は焦る。「この震えがなくなったらヤバイ」。「低体温症」の文字が頭をかすめる。

そのまま Ii 島さんにトップをお願いし、階段状に見える左斜面を上がってもらう。

後続パーティのロープとクロスするが、そちらを待っていては時間がかかりすぎる。上手くいけば干渉しあわずに行ける。そう言って、Ii 島さんに進むことを促す。

こちらの斜面は日が当たり、雪が緩んできているのがよく分かる。急がなければアイゼンの効きが悪くなるかも。

#### 【テクニカル・ノート】

- ・ルートは出だしが少し悪いがあとは登りやすい。雪が締まっていれば比較的自由にルートが選べるかも。支点は灌木もしくは岩で。
- ・P3 は尾根を抜けるまで、60mロープであれば2P でいける。

尾根のち P4 へ。

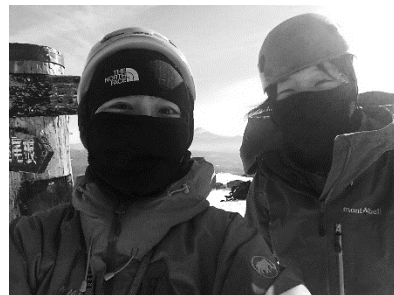
先行パーティと同様、ロープは出したまま、数メートルコンテで歩く。基部の手前、狭い岩のバンドを左にトラバースする必要があるが、微妙な雪の付き加減。足元は、万一落ちてしまうとまづい傾斜である。ここはコンテ/肩がらみで確保。一応落ちないことを前提に慎重に先に Ii 島さんに行ってもらい、細井が続く。

後ろから威勢のいいお兄ちゃん2人が「え？ロープ使ってる？ガイドか？」なんて話しているのが丸聞こえ。ええい、うるさい。マイペース安全第一よ！ しかしこのお兄さん、愉快でいい人たちでした。

さらにもう一度の確保で先行してもらい、途中の少し平らなところで順番交代。  
ピナクルで一つ支点を取ったが、落ちる心配はないだろう。  
少し息が苦しくなるが、頂上はもう間近。あと少しだ、頑張れ、と言いきかせ、一気に  
トップアウト。

#### 13:15 山頂・昼休憩

ここまでほとんど休憩なく来たこともあり、安心感とともに急激に空腹が襲ってくる。  
予報では午後から空模様は下り坂で、飛行機雲（巻雲）  
もかかっていたが、最悪樹林帯までは持ちそうな晴天。  
風も落ち着いてきた。  
残りの時間を忘れて昼食タイム兼の大休止タイム。



#### 14:00 山頂出発

##### 【テクニカル・ノート】

- ・ 山頂が広いため、悪天時は方向確認のうえ進むこと。
- ・ 山頂直下の下降が急傾斜のうえ、はしご・岩の乗越しがある。ルートが凍っている場合はしっかりアイゼンを効かせること。
- ・ 地形図 2296m 地点を過ぎれば傾斜も緩く安全地帯に入るので、そこまでは慎重に。

#### 15:30 御小屋山山頂・舟山十字路と美濃戸口への分岐

手前の偽分岐に騙されるな！

#### 17:50 美濃戸口バス停

#### 18:00 オーベルジュ yatsugatake J&N にチェックイン

#### エピローグ

核心を抜けた私たち。山頂で今回のルートを早くも振り返っていた。

3ルンゼでどんどん後続パーティに抜かされていったとき、普段温厚な彼女も心中は穏やかでなかったらしい。しかし私たちはどちらかが冬季登攀のエキスパートでもなければ、ルート経験者でもない。また、どちらかが体格的・体力的に格段に秀でているわけでもない。（女子としては、ほんのちょっと他の人よりも強いのかもかもしれないけれど…） 慎重にし過ぎてもいいと思った。慣れれば早く処理するテクニックも身につけていこう。でも今回の目標は、目標ルートを安全に通過して無事に山行を終えること。それは無事クリアできそう。

と締めくくりたかったが、そこからの下降ルートもなかなか長い。しかも気の抜けない急傾斜。太ももがぷるぷるしてくる。山中を抜け別荘地に入ってからバス停までもひたすら長く遠く遠い。

宿に着いて Ii 島さんが「前穂に続いて今回も濃密でしたね」と笑った。本当に、私の山行はいつも濃密・濃厚・ストイックになってしまう。なぜだろう？（笑）

#### おまけ…宿情報『yatsugatake J&N』

素泊まり 4800 円。食事代は別途実費。

完全個室。お風呂&タオル&歯ブラシセットつき。オーベルジュなので食事も美味しいが、オーナーはパティシエとあって実はスイーツも絶品。

朝出発が早い場合は朝食をおにぎりにして用意してくれる。タクシーの手配もしてくれるなど、至れり尽くせり。登山者の欲しいをよく分かっている快適な宿。